



〈 社会人の窓 33 〉

川辺に漂う文学の薫り ～歌碑・句碑探訪

澤井健二

全国の河川水辺には日本文学にまつわる史跡が数多く存在し、それらをめぐるとツアーも各所で行われています。水辺に学ぶネットワークでは、昨年来、上記のタイトルを掲げて近畿地方における川辺の文学碑について文献・聞き取り調査するとともに、そのいくつかを探訪してきました。日本文学には、小説、随筆、詩歌など、さまざまなジャンルがありますが、古代の近畿地方を代表する文学作品としては、まず、万葉集が挙げられます。そこで、「万葉歌碑巡り」というキーワードで検索したところ、真っ先に出てきたのが、奈良県桜井市にある山の辺の道沿いの歌碑巡りでした。私は当初、川辺の歌碑・句碑にこだわっていたので、山の辺の道よりもむしろ、飛鳥川沿いの歌碑巡りをイメージしていたのですが、山の辺の道沿いに多くの歌碑が集中していることから、JR 桜井線の巻向駅から三輪駅までの間の山の辺の道沿いに徒歩で歌碑巡りをするに決し、先月2月9日(月)に私と日本水防災普及センターの運営委員である木村昌弘さん、BY ネット事務局長の丸井晶子さんの3人で下見に出かけました。当日は朝からの大雪で道路が渋滞し、桜井駅に到着したのは12時半頃でした。桜井駅前の観光案内所で歌碑巡りの詳しいパンフレットをもらい、大神神社前の駐車場から徒歩で山の辺の道沿いに巻向古墳まで歌碑を巡ったあと、国道169号線沿いに大神神社まで戻りました。この下見で、コースのおおよそがわかったので、2月23日(月・祝)に、下見時の3人に淀川愛好会編集長の岡崎善久さんと私の孫の柏原英吾君を加えた5人で、今度はJR 巻向駅を集合地として、徒歩で下見の時とは逆のルートで山の辺の道沿いにJR 桜井駅まで、パンフレットを見ながら21基の歌碑をめぐりました。

探訪した歌碑はいずれも趣のあるものでしたが、私にとって特に印象深かったのは、大神神社の境内にある倭建命の「やまとはくにのまほろば たたなづく青がき山にこまれる大和しうるわし」の歌碑です。この歌碑の横には、この歌につけられたメロディを音符にして彫られた歌碑が並んで建てられています。思わず口ずさみたくなりまし

たが、なかなか難しそうなメロディで、いまだにうまく歌えません。この歌碑の揮毫は作曲家の黛敏郎氏によるもので、メロディも同氏の作曲だそうです。この歌の歌碑は檜原神社の近くにある井寺池の畔にもあり、その揮毫は小説家川端康成氏によるものです。狭井川の横にある大和和の杜展望台に上がると、畝傍・耳成・天の香具山の大和三山が見渡せ、万葉人になったような錯覚を覚えました。

(淀川愛好会相談役、水辺に学ぶネットワーク会長)

与謝蕪村の句碑めぐり 岡崎善久

Yodorik News No.110でも報告したように、歌碑・句碑探訪シリーズの第1回は大川沿いの堤防沿いに与謝蕪村の句碑を訪ねて30人程が集まり、大川沿いに2時間かけて歩いた記憶が蘇ってきました。毛馬の淀川堤防沿いにある「春風や 堤長うして 家遠し」をはじめ、数多くの名句を詠んだ蕪村ですが、その一つは梅と桜の名所で知られる大川沿いに架かっている「桜の宮」源八橋の中央の高欄に「源八渡し」を題材にした俳句「源八と 渡りて梅のあるじかな」がさりげなく静かに謳われています。原文のニュアンスと地形史の流れを丁寧に保ちながら、江戸時代には、淀川は渡しが多いところで有名です。平田の渡しが淀川の最後の渡しとして大正十四年に大阪市営として三百年の歴史の幕が下りたのです。日本列島の美しい村や風景と風土が亡くなっていくのは不安です。蕪村は、「五月雨や 滄海を 衝く濁水(にぎりみず)」と詠んでいます。濁流の衝突と色彩の対比、そして自然の根源的な力に、蕪村のまなざしは向けられています。この句がどこで詠まれたのか——。その問いに明確なこたえはありませんが、句の底に流れる状況をたどれば、蕪村の生地に近い淀川河口の風景が想起されます。もっとも、実際その地に詠まれたかどうか定かではありません。

ところで、Yodorik News No.112で、足羽川ダムのことが報じられましたが、流水型ダムの手法の陰に隠れてももっとも、技術の意味を問わなければなりません。忘れられている大切なものが見逃されている気がするのです。日本にはコンクリートダムが現在でも多く、3千個のダムが存在していますが、未だに洪水は減っていません。また、このようなあまり例のない流水型ダムが日本の風土に存在していくのであれば、生物多様性における環境が壊されていくのかと思うと日本の美しい日本の風土がどうなっていくのか不安が募ります。河川や風土がダムの底に村落が沈んでいくと今後はさらに過疎化が進み、都市化されていくだろうと思います。

(淀川愛好会編集長、岡崎善久建築設計事務所)

イベント報告

淀川愛好会 総会 2026

2月21日(土) 11時から摂南大学寝屋川キャンパス1号館3階の都市環境工学科会議室にて淀川愛好会の総会が開催されました。総会は新会員の学生も参加したため、多くの人数で行われました。参加した会員の自己紹介なども行いました。去年行われたグリーンインフラに関することと今回の流水型ダム、とくに足羽川ダムについて環境との関係など、環境と社会について熱く話し合いが行われました。また、2025年の事業報告と2026年の事業計画についての確認がなされました。(杉尾翔大)

2025年度 事業報告

| 日程 | 内容 | 開催場所 |
|----------------|---------------------------|-------------------|
| 4月27日(日) | 淀川まるごと体験会・春 | 淀川・点野地区 |
| 5月11日(日) | 外来魚駆除釣り大会 | 淀川・城北ワンズ |
| 6月1日(日) | 淀川・毛馬水門めぐりツアー | 淀川・毛馬地区 |
| 6月14日(土) | 川と海と魚のフォーラム | 海遊館 |
| 6月29日(日) | 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 | エルおおさか6F |
| 7月26日(土) | なんたん龍の森夏祭り | ハピロー!の森 京都 |
| 9月21日(日) | 淀川まるごと体験会・夏 | 淀川・点野地区 |
| 10月19日(日) | 川の恵みを活かすフォーラム | 京都大学宇治川オープンラボラトリー |
| 10月26日(日) | アユの食味会 | 京都大学宇治川オープンラボラトリー |
| 11月15・16日(土・日) | 天若湖アートプロジェクト | 日吉ダム周辺 |
| 11月23日(日) | 茨田イチョウまつり | 茨田樋遺跡水辺公園 |
| 11月30日(日) | クリーンリバー寝屋川作戦 | 幸町公園 |
| 2月21日(土) | 淀川愛好会総会、近畿河川フォーラム・淀川討論会 | 摂南大学寝屋川キャンパス |

2026年度 事業計画

| 日程 | 内容 | 開催場所 |
|----------|-----------------------------------|--------------|
| 4月26日(日) | 淀川まるごと体験会・春 | 淀川・点野地区 |
| 4月26日(日) | 大川クリーン活動 | 大阪ふれあいの水辺 |
| 6月28日(日) | 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 | エルおおさか6F |
| 9月頃 | 淀川まるごと体験会・夏 | 淀川・点野地区 |
| 11月頃 | 天若湖アートプロジェクト | 日吉ダム周辺 |
| 11月頃 | 茨田イチョウまつり | 茨田樋遺跡水辺公園 |
| 2月27日(土) | 淀川愛好会総会、近畿河川フォーラム・淀川討論会・水と流域フォーラム | 摂南大学寝屋川キャンパス |

第10回 近畿河川フォーラム 兼 第28回 淀川討論会

2月21日(土)14時から摂南大学寝屋川キャンパス3号館311教室にて、第10回 近畿河川フォーラム兼第28回 淀川討論会が開催されました。「流水型ダム」というテーマで、約35名にご参加いただき、参加者それぞれの思いを語り合い、参加者の皆様の交流の場としても充実したものであったと思います。

はじめに淀川愛好会会長・伊藤譲先生の開会挨拶があり、14時5分から近畿地方整備局の岡崎さんに、河川協力団体の全国および近畿の動向について説明していただきました。地域住民に環境について学んでもらう取り組みや、水辺のにぎわいを創出する活動についての紹介があり、河川空間を活用した地域づくりの重要性が示されました。そこから質疑応答の時間があり、参加者との意見交換が行われました。その後、澤井先生より流水型ダムについての解説がありました。主に足羽川ダムの説明が行われ、近畿地方にあまり例のない形式のダムであることが紹介されました。続いて、近畿地方整備局の佐藤さんより、足羽川ダムの事業概要について詳しい説明がありました。さらに、大戸川ダムにおける地域活性支援の取り組みについても紹介されました。15時40分に前半の部が終了し、15時50分から後半の部が行われました。

後半の部では意見交換が行われて、流水型ダムと環境の配慮について議論されました。とくに足羽川ダムの役割について整理され、流水型ダムの特徴と環境的配慮の重要性について理解を深める機会となりました。

(杉尾翔大)



会場の様子



大川クリーン活動&川で学び・つながる

日時：2026年4月26日(日) 10時～14時頃
 場所：大阪ふれあいの水辺(源八橋周辺)
 内容：清掃活動&水辺の生き物観察、Eボート乗船
 参加費：無料
 主催：おお川水辺クラブ、淀川愛好会
 連絡先：淀川愛好会事務局

イベント案内

歌碑を訪ねて、ついでに桜も愛でる

宇治市をめぐる歴史探訪ウォーキングのご案内

日時：2026年3月29日(日) 小雨決行
 集合：午前10時 京阪電車宇治駅改札前
 解散：15時予定
 昼食：持参
 参加費：無料
 散策コース (歩行距離 約5km)
 京阪電車宇治駅 → 「お茶と宇治のまち歴史公園
 茶づな」 → 橘島 → 朝霧橋 → 宇治神社 →
 与謝野晶子碑 → 大吉山登り口 → 大吉山展望台
 → 源氏物語ミュージアム → 夢の浮橋 → 京阪
 電車宇治駅 (15時頃解散)
 主催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
 申込：3/25までに下記のいずれかへ
 澤井健二 (BY ネット代表幹事)
 メール：kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp
 TEL：090-2196-9594
 日本水防災普及センター 石中
 メール：ishi0908@yahoo.co.jp

第8回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏

シンポジウム in 大阪

日時：2026年6月28日(日) 12:30～16:40
 場所：エル・おおさか 606号室 (大阪府立労働センター)
 テーマ：「気候変動と流域環境」
 プログラム：
 12:30～13:30 ポスターセッション
 13:35～基調講演 14:20～話題提供 15:20～総合討論
 主催：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会
 共催：摂南大学
 協力：学校法人常翔学園
 参加費：無料

淀川まるごと体験会・春

日時：2026年4月26日(日) 10時～12時頃
 場所：淀川河川公園点野草地区・ワンド周辺
 内容：クラフト体験や堤防決壊モデル実験、
 浸水歩行体験、防災啓発コーナー、
 パネル展示コーナーなど
 参加費：無料
 主催：淀川まるごと体験会2026実行委員会
 問い合わせ：河川レンジャーアドバイザー
 玉井 090-2100-9276

会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしています。ご入会を希望される方は、淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も、随時募集しています。
 会員の方は、今年度の年会費3000円(学生1500円)を納入して下さい。
 会費は事務局にお届け下さるか、下記へお振込み下さるようお願いいたします。
 ・お振込先
 りそな銀行 寝屋川支店 店番 216
 普通預金 口座番号 2230030
 口座名 淀川愛好会(ヨドガワアイコウカイ)

〈学生の窓 33〉

1年間を振り返って

杉尾翔大

私は石田ゼミに入り、この1年間で多くの学ぶ機会を得ることができました。ゼミでは、河川に関する様々なイベントやゼミ生の研究の手伝いを通して自分の知らなかった知識や視点を学ぶことができました。また、外来魚の食味や鍋パーティなど石田ゼミならではの楽しみがありました。

卒業研究は「遊水池活用による1次元不等流解析を用いた淀川三川合流域における水位と流量の関係に関する検討」を行いました。巨椋池干拓地に遊水池を設置することで、水位にどのような効果があるのかを1次元で解析しました。河川のモデルを複断面としたため、とても時間がかかりました。解析は難しく、1人で勉強するのはとても難しい内容でしたが、澤井健二先生のご指導の下、進めることができました。

研究を通してこれまで何気なく見ていた河川も、流域全体の地形や歴史、治水計画との関わりで捉えるようになり、河川を見る視点が変わりました。この研究に取り組めたことは自分にとって非常に大きな財産であり、とても良い経験になりました。

私は、これから教員として働くこととなりますが、大学で培った知識だけでなく、困難に直面しても粘り強く取り組む姿勢や、多くの人と協力する大切さも、生徒たちに伝えていきたいと思えます。そして、生徒一人一人が自ら考え、挑戦し、成長できるような授業作りを目指していきたいと思えます。



卒業研究発表の様子

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ4年)

書籍紹介

書名：「残像に口紅を」

著者：筒井康隆

発行：中央公論新社

発行年：1995年

定価：990円+税



この小説は、物語の中で日本語の文字が一つずつ消えていくという大胆な設定のもと、「言語と世界の関係」を描いています。

最大の特徴は、物語内で消えた文字が実際に本文からも消えていくという仕掛けです。読者は、言葉が失われていく不安や違和感を体験しながら、「言語が思考や認識を支えている」という事実に気づかされます。

私がこの作品を選んだ理由は、石田ゼミでの一年間の活動を通して、「言語」や「言葉」の重要性を強く実感したからです。研究では、現地調査を進めるうえでゼミ生同士の協力が不可欠でした。調査に協力してもらった際に感謝の言葉を伝えるかどうかといった、ささいに思える言葉のやり取りが人間関係を左右し、その後の調査への協力にも影響することを実感しました。言葉は単なる情報伝達の手段ではなく、人と人との関係を築く重要な役割を担っているのだと感じました。

また、就職活動においても、言葉の重要性を考える機会がありました。普段はとても誠実で、気さくな学生でも、なかなか内定が決まらず苦勞している姿を見ました。その背景には、自分の良さや考えを言葉で適切に伝える難しさがあるのではないかと感じました。

さらに、私は教育実習に参加し、授業の難しさを痛感しました。自分の理解の深さや語彙力、説明の仕方によって、生徒の理解度は大きく変わるのだと実感しました。

このように、ゼミ活動や就職活動、教育実習を通して、言葉は人間関係を築き、考えを伝え、学びを成立させるための基盤であると強く感じました。『残像に口紅を』は、言語がもし失われていったら世界はどのように見えるのかという問いを通して、私たちが普段当たり前のように使っている言葉の意味を改めて考えさせてくれる作品です。

(宇野真白)

編集後記

今年も卒業シーズンがやってきました。一年間編集委員を担当してくれた学生たちも、4月からは社会人としてそれぞれ旅立ちます。若者たちの新たな門出に祝福を。

淀川愛好会総務 石田裕子

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP： <https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/>

E-mail： ishida@civ.setsunan.ac.jp